瑞浪高校　首都圏同窓会

川柳を楽しむ会　作品コンテスト　結果発表

第二回の作品コンテストは、「恋」「仲間」「籠る」をお題として募集しました。
その結果、十一名から六十一点の応募があり、前首都圏同窓会会長で江戸川柳研究家であり、現代川柳にも造詣の深い**小栗 清吾様**と、瑞浪高校の出身者で『川柳塔』という有名な結社の元常務理事で現代川柳のプロの**水野正明様**に寸評と入賞作品の選定をお願いしました。
その結果、左記のとおり四作品が入賞いたしました。
栄えある入賞者には、心からお祝い申し上げますと共に、残念ながら入賞できなかった方々の、今後の奮起に期待します。
なお、古川柳と現代川柳の大御所から寸評を頂きましたことは、私ども川柳を楽しむ会にとりましては、身にあまる光栄であり、衷心より感謝申し上げる次第です。

川柳を楽しむ会　　会長　伊藤一徳

入賞作品（四作品）

優秀賞　「天」　おならした　銀座四丁目の　交差点
（安藤克子）

準優秀賞　「地」　後輩に　おごる？割り勘？　迷う酒
（長谷川周三）

佳作　「人」　あの犬も　いつもの散歩　仲間かな
（塚本信行）

佳作　「人」　本命に　惚れてはいない　ふりをする
（長谷川周三）

首都圏同窓会「川柳を楽しむ会」第二回作品　講評

※は選者の寸評です。

長谷川　周三（四十五年卒）

「恋」

・同窓会　目当ての君に　ドッキドキ

※同窓会　いまも君には　胸躍る

・君だけが　輝いていた　瑞高で

※学び舎に　輝いていた　君ひとり

佳作「人」

・本命に　惚れてはいない　ふりをする

※いい句です。

「仲間」

準優秀賞「地」

・後輩に　おごる？割り勘？　迷う酒

※いい句です。

・ライン飲み　飲み明かしても　テレワーク

・コロナ禍で　相手にされず　一人酒

「籠る」

・籠りっ子　親のよい子に　プレッシャー

※ちょっと意味不明です。

・在宅で　掃除洗濯　妻ランチ

※テレワーク　洗濯もして　妻ランチ

・孫たちと　かくれんぼして　菰（こも）かぶる

「その他」

・患った　汚職議員の　物貰い

※ちょっと言葉遊びかな。

・下ネタと　性教育は　紙一重

※そうかもしれないけど。

・妻と子に　相手にされず　どう生きる

※下五は「猫を飼う」などで如何。

安藤　克子（三十七年卒）

「恋」

・この寝顔　昔はいとし　かったのに

―オットごめん―

※この寝顔昔はモンロー小百合様

・初恋の　人逝ったから　かの（黄泉）国行くの

怖くない

―オットごめん―

「その他」

・待ちこがれ　変わった総理　又嫌い！

優秀賞「天」

・おならした　銀座四丁目の交差点

※「交差点」のかわりに「ど真ん中」ならもっと面白い。

・恐いのは　冷蔵庫にある　車の鍵（キー）

・孫八人　三人目からの　名があやしい

—かま姉さん—

※孫多く　キラキラネーム　記憶不可

伊藤　一徳（四十五年卒）

「恋」

・初恋を　想い出しては　若がえり

・初恋の　夢見て覚める　妻の声

※初恋の　夢を蹴散らす　妻の声

「仲間」

・呼ぶなよと　先逝く友に　花を添え

※「花を添え」→「頼み事」

・探しとけ　気の利いた店　あの世でも

「籠る」

・コロナ禍や　友と交わすも　夢籠り

宮田　栄子（四十六年卒）

「恋」

・後朝の　別れぞ今は　なかりけり

※後朝の　別れ令和は　ラブホテル

・ときめきは　老いらくの恋　動悸かな

「籠る」

・こもりびと　見守る親は　高齢者

・巣ごもりよ　通販・体重　増すばかり

※巣籠もりに　体重は増え　夢は減る

「仲間」　・友より来（く）　手作りマスク　サンタ柄

水野　久志（四十七年卒）

「恋」　・いと恋し　高校時代の　通学路

※通学路　春に芽生える　恋と夢

「籠る」　・厳冬の　我も炬燵に　潜り込み

「仲間」　・同窓会　コロナ増加で　リモートか

塚本　信行（四十一年卒）

「恋」　・今陽子　ハーモニカで　恋の季節

・散歩して　いつもの人を　探してる

※あの人に　逢えるか散歩　遠回り

「仲間」　・仲間との　つもる話も　出来ぬ巣ごもり

佳作「人」　・あの犬も　いつもの散歩　仲間かな

※あの犬が　散歩仲間で　歩数増え

「籠る」　・自粛しよ　炬燵に籠り　ふて寝する

加藤　桂吾（四十六年卒）

「恋」　・恋なんぞ　青春時代の　忘れ物

※恋なんぞ　遠い昔の　忘れ物。

・置手紙　遠い昔の　恋心
・今時は　ラインで伝える　恋心

「籠る」
・籠りたや　されど隠れる　当てがない
・おお怖い　籠った家は　なお怖い

「仲間」
・顔の皺　苦労したよと　仲間たち
※皺の数も勲章めいた仲間たち
・仲間たち　ラインの中で　嘆き節

川野　勝喜（五十四年卒）

「恋」
・恋すれど　届かぬ想い　文に寄せ
※恋の思い　届けと貼った　花切手
・情熱の　恋する夏の日　燃え上がり

「仲間」
・集う友　時を忘れて　朝迎え
・飲むほどに　昔に戻る　同級生

「籠る」
・春なのに　コロナを越えぬ　もどかしさ
・いつになる　県境越えの　里帰り

虎澤　昭久（四十五年卒）

「恋」
・腕組まれ　恋人気取り　デイサービス

・ホレたのは　ボケのせいかな　老いの恋

「仲間」

・不精でも　繋がる仲間　エンタキー

・　呼び出すも　出るまで永い　老いライン

・ふるさとへ　老友集いて　墓参り

「籠る」

・家時間　お金減らして　脂肪貯め

※家籠もりに　貯金は減るが　脂肪増え

・お取り寄せ　北や南の　旅気分

下條　宗男（三十二年卒）

「恋」

・期待して　入ったサークル　恋仇

・堪忍して　何度やっても　振られ役

・恋や来い　何度やっても　初恋の味

「仲間」

・仲間だと　信じた俺の　あさはかさ

「籠る」

・混浴を　絶たれて独り　こもる宿

松原　博隆（四十五年卒）

「恋」

・夜９時に　ダイヤル回し　ラブコール

「その他」

・バンバンと　響くまわし　国技館

※「響くまわし」→「まわしの響く」